

会員数 (2007年10月末現在) 263名。
目標!! 会員500名!! 一人が一人紹介すれば500名になります!!

49年白門会のホームページ ↓

<http://www.gakuinkai.com/hakumon49/>

CONTENTS

- 1 ページ ★「通勤雑記」中島章夫
- 2 ページ ★2007年度総会議案報告
- 3 ページ ★総会・懇親会レポート
- 4.5 ページ ★会員からのエッセー「お祭り」
- 6 ページ ★友へのメッセージ「ふるさととおふくろさん」黒石正樹
★事業部掲示板「新年会」「ボーリング大会」のお知らせ
★台湾の空に泳ぐ鯉のぼり」増田勝美
- 7 ページ ★「楽苦我喜」原伸正 ★「業界こぼなし」安藤正幸
- 8 ページ ★「ホームカミングデーに参加して」渡邊秀和 ★編集後記 ★事務局日より

小生、中大に入職し4年間は電車通勤、その後、多摩キャンパス勤務の18年間は車通勤、多摩を離れ、後楽園・駿河台勤務でまた電車通勤(途中1年間、多摩の法学部事務室勤務を挟んで)。現在は、基本的には、電車通勤だが、新車に換えたため週に一回程度は、駿河台まで車通勤。

最初の勤務先の中大附属高校へは、東中野から武蔵小金井の下り電車、減多に満員電車の経験はなかった。昭和52年からは同期の高田寺・宮川氏宅に下宿でお世話になり、あまり立つこともなし。転機は、多摩に異動した翌々年、昭和56年であった。

前年30歳を前に車の免許を取得、また、八王子に転居したのに伴い、車通勤を始めたのである。車通勤の利点は、満員電車での痛動もなく、仕事も帰宅電車時間を気にすることなくできることだ。反面、運転中で



イラスト・似顔絵師 まりこさん

の腹痛痛動に何度か苦しめられた。脂汗をたらしながらの運転はまいった。「大学構内での一番近いトイレは？」と頭を思いめぐらし、駐車場近くのサークル棟へ駆け込み、何とか事なきを得たことが幾度かあった。

平成9年、思いもよらぬ後楽園の理工学部勤務へ、久しぶりの電車通勤、しかも、従前とは違い、都心への上り電車。「ああ、これからは痛動地獄か？」と思いきや、幸いにも、八王子からは始発電車あり、一安心。ただ、始発に乗るのは、入線前、10分前には並ばなければならぬ。ましてや、3人掛けの連結よりの端の席を確保するには、更に最低でももう10分早く並ばなければならぬ。

真冬のプラットホームでの20数分間は少し厳しいが、座れる。小生の定位置に腰をおろすと、連結側の窓に鞆をおき、枕代わりとし、新聞にざっと目を通し、立川付近で就寝となる。八王子から御茶ノ水の平均所要時間は、およそ1時間5分。立ちっぱなしと座れるかは、50歳を超えた身には、天国と地獄である。

久しぶりの電車通勤で、車では見ること・体験することのない社会現象等を目にして、あらためて、社会状況等に疎くなってしまうことを

痛感した。それは、理工勤務初日の痴漢騒動。実際話には聞いてはいたが、見たこと・遭遇したことはなかった。電車が荻窪を過ぎたあたりで、女性が少し大きな声で「やめてください！」と、すると今度は、「何もしてはいないではないか。」と、荒げた男性の声。小生、一変に目が覚め、耳はダンボに。あたりを見回すが、超満員でわからずじまい。そうこうする内に、高田寺で二人は下車した模様。その後のことはわからぬが、はじめての体験にびっくり。

女子高校生達の電車内での変身もその一つ。朝、彼女たちが下車する駅の近くになると、スカートの丈を長くし、ルーズソックスを履き替える。そして、帰りは逆、くるくると丸めて短くし、靴下を履き替える。あらためてなるほど。

今では何の変哲もない光景だが、昭和54年当時、画期的な機軸であったウォークマン1号機を、通勤時、電車の中で聞いていると、周りからの好奇の目が注がれるのを、少なからず優越感を感じていた時代を今も懐かしく思い出す。

中大生活もあと6年余、これからも通勤でのどんな巡り合わせがあるのか楽しみです。

49年白門会

(題字・葛西 聖司)

通勤雑記

49年白門会 幹事長 中島章夫

【49年白門会2007年度総会】

2007年7月7日（土）後楽園の中大理工学部校舎に於いて、2007年度の「49年白門会」の総会が開かれ、各議案が審議されました。

会計部・事業部の各部長と幹事長の説明に対して、全員の拍手で承認されました。次回は役員改選期になります。ぜひ新しい風を!!

第1号議案

2006年度事業活動報告について

- 1・2006年7月8日（土）
中央大学49年白門会2006年総会・懇親パーティー
（中央大学理工学部校舎：2次会出席者を含め延べ29名参加）
- 2・2006年10月22日（日）
第17回中央大学ホームカミングデー参加
（中央大学多摩校舎：21名参加）
- 3・2007年1月27日（土）
中央大学49年白門会新年会（銀座「Sumitomo」：35名参加）
（オークションを行い、売上金全額を125周年記念事業に寄付）
- 4・2007年3月10日（土）
春の散策「皇居東御苑の春を愛でる」
（10名参加）
- 5・中央大学49年白門会会報の発行
第12号：2006年6月8日（土）
第13号：2006年12月7日（土）
- 6・中央大学49年白門会幹事会活動
第28回：2006年4月6日（土）
第29回：2006年6月8日（土）
第30回：2006年9月7日（土）
第31回：2006年10月5日（土）
第32回：2006年12月7日（土）
第33回：2007年2月1日（土）
第34回：2007年3月22日（土）

第2号議案

2006年度収支決算書

(2006年4月1日～2007年3月31日)

〈収入の部〉 (単位 円)

費目	決算額
会費収入	261,000
懇親会収入	350,000
雑収入	111,523
収入合計	722,523

〈支出の部〉

費目	決算額
通信費	80,010
事業費	183,540
事務費	0
懇親会費	359,630
交際接待費	181,500
雑費	10,016
支出合計	814,696
当期収支差額	△92,173
前年度繰越金	1,270,305
次年度繰越金	1,178,132

第3号議案

2007年度事業計画案について

1. 「中央大学49年白門会」事業計画基本について
会員相互の親睦・交流、会の組織強化、中央大学および学生会他支部との交流を図るための活動を行う。
 (1) 親睦会・懇親会等の開催と各種同好会活動の実施
 (2) 会員名簿の発行と会報の発行
 (3) 新規会員の勧誘
 (4) 中央大学学生会他支部との交流について
- (1) 「観桜会」・「散策の会」・「グルメの会」・「映画鑑賞会」等の各種委員会親睦会の開催
 (2) 「ホームカミングデー」の参加等
 (3) 「新年会」・2008年1月26日（土）（予定）の実施
 (4) 関西支部結成に向けての事前活動等々

報告事項

(07年度分を含む)

1. 学員総会での表彰について
学員総会（5月12日）において、山崎厚太49年白門会支部長が表彰。（6年間勤続の支部長・幹事長が対象）
2. 協議員の改選について
協議員の改選について
任期：2007年7月1日～2010年6月30日
協議員（新任）：5人
・藤本真也（法）、益田耕二（法）、石川健次（法）、石川昂雄（経）、小澤秀敏（経）
協議員（再任）：8人
・葛西聖司（法）、山崎司平（法）、増田勝美（法）、中島章夫（経）、宮川保（経）、安藤止幸（経）、原伸止（経）、渡邊秀和（文）
3. 125周年記念事業の寄付金について
「新年会」でのオークション売上金の寄付
・新年会（1月27日）において、125周年記念事業の寄付金オークションを実施
・オークション売上額 91,500円（全額寄付）
・オークション追加売上額 2,860円（07年度全額寄付）

第4号議案

2007年度予算案について

〈収入の部〉

費目	予算額	摘要
会費収入	305,000	(入会金@1,000×5、会費@3,000×100)
懇親会収入	300,000	(総会・新年会懇親会@5,000×60)
雑収入	100,000	(オークション収入寄付金他)
前年度繰越金	1,178,132	
合計	1,883,132	

〈支出の部〉

費目	予算額	摘要
通信費	70,000	(郵送料、はがき代)
事業費	200,000	(会報制作費他)
事務費	10,000	(事務用品、幹事会賃借料、交通費他)
懇親会費	300,000	(総会懇親パーティー・新年会飲食費他)
交際接待費	180,000	(オークション収入の寄付金、125周年寄付金および広告料他)
雑費	10,000	(郵便振替手数料他)
次年度繰越金	1,113,132	
合計	1,883,132	

設立8年目の「49年白門会」 総会・懇親会に新しい波が!!

七夕の7月7日に2007年度の総会が26名の会員の出席の下に開かれました。設立8年目を迎えて、設立からずっと役員をやっているのは、会の発展に支障をきたすことになるので、是非、来期は新メンバーでの体制にしたいという、会長の強い要望があった。

ここでもオー

クションが!!

場所を地下の食堂に移して4時半から懇親会が始まりました。山崎司平副会長の挨拶でスタート。中大の常任理事になられた会員の辰馬氏から中大の現状と展望が披露されました。その後談話となつてあちらこちらで話の輪が広がりました。

多忙で出席できなかったNHKの葛西さんから雑誌「今日の健康」と「京都祇園の舞妓さんのウチワ」がプレゼントされました。新年会で大好評だったオークションで、という希望が添えられていたので、宮川さんの司会でオークションがスタート。ウチワ6本と雑誌5冊で8300円の落札金が入り、49年会の名で125周年に寄付をしました。今後、オークションというイベントが増えそうな雰囲気になってきました。

6時前に校歌、応援歌を斉唱して、新潟県から参加していただいた松平さんからの「来年も元氣な顔でお会いしましょう」という挨拶で開きになりました。13名が2次会の居酒屋に集まり時間の許す限り、歓談しました。

(広報部)

7月最初の土曜日が「49年白門会」の総会、というのが恒例になった7月7日、午後3時から総会が始まりました。ちょうど七夕の日に、1年ぶりに出会う同期もいて26名が中央大学理工学部校舎に集まりました。

山崎会長の挨拶では、来年は役員改選期でもあり、そろそろ交代の時期であることを強調されました。役員が役員になつても引き継ぐことが

できないので、2ヶ月に1回実施している幹事会の議事録はメールで全員に送り、各行事の会計もその都度お知らせしていきますので、是非来年の改選時には立候補をお願いしたい、という挨拶がありました。

議長に宮川さんを選出し議案の審議を行いました。06年度事業活動報告を中島幹事長、06年度会計監査報告を木村会計監事、06年度収支決算報告を後藤会計部長、07年度事業計画案を増田事業部長、07年度予算案を後藤会計部長が説明し、それぞれ全員の拍手で承認されました。

その他として、中島幹事長から、5月12日に行われた学員総会で、山崎会会長が支部長を6年間勤続したことで表彰された報告がありました。また協議員の改選で、新任に5名、再任に8名が選ばれたことの報告がありました。任期は07年7月1日から3年間です。

山崎会会長から「年次支部協議会」の説明がありました。年会費が1万円を、留學生の集いに毎年5万円を支払っていますが、協議会としてはほとんど活動はなく「留學生の集い」がメインで、6年後には49年会が幹事となって運営しなければい

中国の常識は日本の非常識

4時からは日通商事(株) 法務コンプライアンス部長の木村真さんの「中国の常識」という題で講演がありました。木村さんはこの3年間で20数回中国を主に東アジアを出張で飛び回っていたそうです。中国での日本とはちよつと違う「常識」についてお話を伺いました。



講演する木村さん

サラリーマンの出張では必須の「領収書」。まずこの言葉「發票」を覚えることが第一条件。中国では1元、5元、10元などの宝くじじつきの

領収書が国から店に発行されているそうです。中国は92%が漢民族で、残りの8%が55の少数民族から成り立っていて、1党独裁ではなく多党有るが共産党が圧倒的に強い、という事です。13億人の人口のうち1割が金持ちで、その1割がスーパーリッチだとか……。

中国の法律は時効がなく遡及されるのでごくリスクであること。中国人の考え方は合理的で、死刑判決の翌日に刑が執行されるそうです。いつ執行されるか分からず不安な日を過ごすより、一晚飲み食いして翌日執行されたほうが精神的に良い、という考えたということです。死刑執行方法は、頭部を銃撃していわゆる脳死状態にし、内臓を摘出し移植

かるとパスポートに朱印で「淫」の字を押しつけます。帰国してから「パスポート紛失届け」を出す日本人が多数いるとのことなど、日本の常識とは違った中国のお話を30分に渡り披露していただきました。

49年白門会2007年総会



会員からの
エッセー

私の「お祭り」を語る

「お祭り」といえば思い出すなつかしい思い出…。見る「お祭り」から参加した「お祭り」まで、いろんな「お祭り」があります。会員の皆様から、心に残って離れない「お祭り」の数々が届きました。人生も、今がお祭りです!!

八幡の祭り

藤本 真也(法) 千葉県
習志野市

皆さんは「お祭り」と聞いて、わくわくしますか？世の中には、笛や太鼓の音を聞くと、矢も楯もたまらず飛び出していくお祭り人間もいるし、一方では、ただの騒音としか感じない人もいます。この違いは遺伝的素質と、子供の頃からの生活経験の両方が大きく影響しているのだと思います。

私は、高校卒業まで千葉真館山市八幡というところで生まれ育ちました。八幡という地名は、地域に安房の国の二宮である鶴ヶ谷八幡宮という大きな神社があるからです。

そこでは毎年9月14日、15日の2日間、千葉真二天祭といわれる「八幡の祭り」があります。私の子供の頃には3日間でも学校も休みでしたが、いつの間にか2日間になりました。神輿1基、山車4台、お船1台が繰り出し、街の中を走り回り、15日の夕方から八幡神社に大集合し、祭りは最高潮に達します。参道には食べもの屋、おもちゃ屋など様々な屋台が立ち並び、お花ばやし、植木市、刃物市など

も賑わいを作っています。歩く人で身動き取れないほどの混み具合です。

夏休み頃から、山車やお船に乗る子供たちは、放課後それぞれの町内で、笛や太鼓の練習に余念がなく、それがあちこちで鳴り響くと「いよいよお祭りか！」という気分をさせてくれます。

こんな街で生まれ育つと、就職や進学で遠方に行っている者も、正月と八幡の祭りだけは帰ってくるようになります。

お祭りに参加!!

板倉 英行(商) 東京都
葛飾区

子供の頃、初夏の夕べ爽やかな風のに、遠く微かに聞こえてくる祭り囃子の音に、近づきつつあるお祭りに思いを馳せたものでした。

私の町は東京郊外の小さな宿場町で、お祭りは神田囃子のルーツの一つといわれるほど歴史の有るものでした。しかし今は形ばかりで昔の賑わいは無く、一部の人達で細々と受け継がれているだけとなりました。

衰退の理由は色々ありますが、故郷を捨て都会の生活に身を委ねてし

まった私達の責任は重く感じます。本心では締め込み一丁でお祭りに飛び込んでゆき、お神輿を担ぎたいのですが、つい血圧が、腰が、仕事が、と言いつけてしまいます。

人は誰もがお祭りに心を持っているもので、昔ながらのお祭りが衰退していく一方、新しいお祭りがどんどん生れてきています。例えば身近なところでは、学園祭、芋煮会、○○町祭り、よきこい○○祭り等々。東京マラソンもお祭りの一つですよ。

多くの人が色々な形で参加し、大成功でした。私達もそろそろ自由のきく年齢になってきました。昔からのお祭り、新しいお祭り、何でもいいから今こそ理屈抜きで裸の心でお祭りに参加しましょうや!

祭り口

小林 隆宣(経) 東京都
八王子市

おもしろいなあと思う。各地には傍目から見ると不思議なもの、可笑しなもの、とても馬鹿気たもの、またなかには危険極まりないお祭りがその地で真剣に行われていて、命が

けで参加しているその土地の人がテレビで全国に映し出される。実にさまざまなお祭りがたくさん在るものだと感心してしまうのだ。

そしてそこには、また不思議なことにそのお祭りに多くの観光客が鈴なりとなつて眺めているのである。どこでどのようにしてそのお祭りの存在を知ったのだろうかと思つてしまふ。

なぜ、お祭りに人は興奮するのだろうか。子供の頃の思い出や郷愁のような懐かしい匂いがお祭りの中にあつて、お祭りが始まるとともに少しずつ頁が捲られ昔話やお伽話が体中の記憶の細胞に刺激を与え、大人しくしていた昔という血が沸き立つてくるような気持ちを感じてしまうのである。

一年に一度、日常から開放される一瞬か一時がそこにはあるのかも知れない。その表しようのない気持ちの高ぶりを「祭り」をする者としてそれを見る者が同時に共有するからこそ興奮し、陶醉してしまうのである。

祭りは毎年毎年同じ事を繰り返すものだ。この連続と続くマンネリズムこそが祭りの本質で、永遠の安穩を象徴しているのではない。

最近、息が切れてなのか、歩みを休める事が多くなつた気がする。振り返る時間や機会が増えてきたかなと思つことがある。さまざまな「祭り」を傍目で見ながら、捻り鉢巻ぎに祭り半纏で高みによじ登り天に己の手を差し伸べる自分が振り向きさま

にそこに居たような気がした。祭りが終わったのか…もう直に終わるのか…

酒に足をとられたような足取りが耳に静かに聞こえてくる。また祭りの直中、まだまだ祭りは終わらない。

ジャズとお祭り

柴田 明(理工) 東京都
杉並区

子供の頃、祭りも今に比べ盛大で見物人や参加者も多く、大人神輿、子供神輿、山車が繰り出し、地域の一大イベントでした。私も神輿を担いだり、山車を引き、子供心にお菓子を貰つて嬉しかった事を覚えていています。

当時住んでいた家の近くの乃木神社(赤坂)のお祭りでは、綿菓子、金魚すくい、あんず飴、又、変わったところではヤドカリを売る等、多くの屋台が出て、楽しい思い出があります。

又、日枝神社(山王まつり)では、東京では珍しく神輿と共に牛車が繰り出すお祭りでした。

最近でも、東京の下町は昔ながらのお祭りが盛大に行われますが、私の住んでいる杉並区は神輿も小さく近くの商店会の人たちが細々とやっている状態で、昔のお祭りが好きな人にとつては、寂しいかもしれませぬ。しかし、祭りも最近では時代と共に形を変え、景気対策と町興しのため、色々なイベントが行われ、私の住んでいる阿佐ヶ谷の街も、七夕の祭り

が有名になり、仙台、平塚のように知られてきましたし、毎年10月には有名なジャズプレーヤーがゲストとして演奏したり、地元ジャズグループが街繰り出し、ジャズストリートフェスティバルで盛り上がり、駅周辺は夕方になると多くの人たちがやってきて人で溢れかえっています。

このお祭りの影響か？ ジャズが好きになりました。祭りに参加する為に楽器の演奏を趣味にする人もいますが、音楽の才能のない私はジャズを聞いたりするのも今後の趣味の一つになるかも？ と思い、せっせと曲をiPODに入れ聞いています。後数年で定年を迎える年齢、何か趣味を持たねばと考える今日この頃です。

「びんびん」と「祇園」

浜手 基親(文) 富山県 氷見市

氷見市に生まれ、住んでいる私にとって「お祭り」は、「ごんごん祭り」であり「祇園祭り」です。

「ごんごん祭り」は春、上日寺の釣鐘をゴンゴンと打ち鳴らします。祇園祭りは夏、山車を練り回します。雨乞いかなった(ごんごん)、疫病が治まった(祇園)を神仏に感謝したのが、それぞれの祭りの由来です。幼いころはもっろん、そんな知識はありません。露店のお菓子やおもちが欲しく、親にねだったものです。

ごんごん祭りのお寺は、市街地を見下ろす朝日山公園の一角にあります。境内が、山の上に建つ氷見高校の通学コースでもあり、学校生活の中に祭り文化が溶け込んでいました。祇園祭りの夜は浴衣掛けでデートし、突然、雨になりました。魚取神社という海岸近くの小さな社(やしろ)の軒下で雨宿りしました。青春時代の懐かしさ、甘酸っぱい思い出です。

真夏のひまわりや秋のキトキトまつりなどが市、商工会議所、漁協、農協、青年会議所など各団体の協力で開かれるようになりました。全国の自治体が地元活性化策に知恵を絞っています。氷見は伝統的な定置網漁法によるキトキト(新鮮の意)の魚でアピールしています。

昔からの祭りをはじめとする。この土地の歴史や文化、習俗、習慣などを重んじた生き方ができればいい、と思っています。



秋のお祭り

井 美知子(経) 埼玉県 所沢市

朝から気持ちよく晴れ上がった10月初旬の日曜に、母と一緒「どころさわまつり」に出かけた。所沢駅前からの通りは、一体どこから来たの

かと思うほどの人出だ。山車がお囃子とともにやってくる。歩道には、かつての露天商に代わり、狭山茶の地元ならではの秋の詰め放題、焼きだんご、ヨーヨーなど、商大会の人たちが店を出している。この何年かの間に、大道芸、女神輿、サンパレード、よさこい踊りなどが次々に加わり、一段と華やかになってきた。

私が小学生の頃は、今ほど豊かではなかったが、心が豊かだったと言われる時代だ。東京の中野区に住んでいたが、お祭りの1週間ぐらい前になると、町内会ごとに御神酒所が設けられ、商店街のおじさんたちが交代でつめていた。お祭りの日は神社で決まっていたので、日曜日とは限らない。当日は、学校が早く終わらないかと、皆ウズウズしていた。もちろん先生も宿題は出さない。

学校から走って帰り、母に浴衣を着せてもらおうと、友だちと山車の出発地点へ向かう。町内会のものは地味で小さな山車だった。親切にも隣の町内会と少し時間がずらしてあるので、ハシゴができた。楽しみはもちろん最後にもらえるお菓子。最初にもらったお菓子の紙袋を浴衣のたもとに入れ、隣の山車に合流し、もう1つお菓子をもらう。たもとがふくらんでいるので、違う町の子供だとすぐわかるのだが、だれもがめだてをしない。そのつもりで時間がずらしてあるのだと、私たちは勝手に思っていたが、今でもそうだったのだろうかと思っている。

そのあとは、お小遣いをもらって近くの神社へ向かう。参道に並んだ露店には、金魚すくい、ヨーヨー、ソースせんべいなど、今の子供はそれほど魅力のあるものとは思わないだろうが、当時の私たちには本当に魅力的なものがズラリと並んでいた。どこまでも続くように思えた参道も、大人になって行ってみると、ほんのわずかの距離だ。

私は金魚すくいが得意で、いつも20匹くらいすくっていた。針金でできた輪の上に少し乗せるといって、ちよつとズルをしたのだが、100円ぐらいのお小遣いでいろいろなものを買えて、帰りには駄菓子やヨーヨー、金魚などで両手がいっぱいになった。裸電球に照らされ参道にズラリと並んだ露店が、懐かしさで思い出される。

今のように華やかなイルミネーションもなく、派手なパレードやパフォーマンスもなく、きらびやかな山車があつたわけではないが、あの頃の自分にとっては、秋のお祭りは本当に楽しいイベントだった。

豪華絢爛な火防祭

千葉 幸嗣(商) 埼玉県 三郷市

ソイヤ！ソイヤ！ソイヤ！威勢のいい掛声と共に神輿が躍動する祭り。そんなイメージを思い浮かべる人が多いのではないだろうか。祭りといっても壮観なものから艶やかで趣きのあるもの、あるいは古式にのっ

た簡素な祭りまで様々です。

私の育った埼玉県奥州には日高火防祭(ひたかひぶせまつり)という3百年來続けられている祭りがあります。町内ごとに金、朱、碧色と彩色艶やかに飾りたてられた、はやし屋台が古趣あふれる音曲に合わせて練り歩き、夜の7時過ぎからは町の中心部でぼんぼりの灯りの中、町内の屋台が競って華麗なおはやしを披露する「相打ち」が祭りのクライマックスです。毎年4月28、29日に繰り広げられ、みちのくに春の訪れを告げる絢爛華麗な一大絵巻といっても過言ではないでしょう。

そもそもこの祭りは「火防」という由来の通り、当時の城主が上京時江戸の大火災を体験し、火災の恐ろしさを肝に銘じ、地元に戻ってから火消しを祈願したことから発展したと言われていました。

東北二大祭といわれる、仙台の七夕、青森のねぶた、秋田の竿灯祭りのように観光客がぞろぞろと訪れる祭りではありませんが、3百有余年の歴史を持つこの日高火防祭は、奥州地方にとっては平泉の藤原祭りと並んで有名です。

私も久しぶりに故郷の祭りに触れ、年配の方から小中学生まで地域の住民が一体となって、何日も前から祭りの準備に取りかかっている姿に感動しました。

白門会の皆さん、みちのくを訪れる機会がありましたら是非日高火防祭へ足を運んでみてください。

友へのメッセージ

インフォメーション

黒石 正樹(法)

た。「カープ」には2年後の新球場建設を契機にまた優勝して欲しいと期待しています。

料理は瀬戸内海に面しているので魚類等は豊富です。「小いわしの刺身」「カキ鍋」は絶品です。

広島は緑と川と人情溢れる住みよい街です。一度遊びに来てください。

大学卒業後、ふるさとの広島に帰り就職、そしていつのまにか30年が過ぎました。

ところで、広島市内に今年88歳の母が元気で一人で生活しています。俳句の趣味を活かし地元新聞に投稿した俳句が2度「中国俳壇賞」を受賞し写真入りで掲載されました。次の二句が受賞した俳句です。

広島は原爆被爆後、60年余りが過ぎ、現在はそのおもかげがありませんが、世界遺産の「原爆ドーム」が原爆の悲惨さ、残酷さを静かに語っています。

また、今年の夏は甲子園で、広陵高校が決勝戦まで進み、低迷している「サンフレツェ」や「カープ」に替わり、県民に元気を発信しました。

赤とんぼ思い出ばかり乗せて飛ぶ 風景に落款のごと播落つ

母の青春時代は戦争そして原爆被爆



爆といった本当に暗くて厳しい時代でした。母はたまたま原爆投下の日、広島に居なかつたため助かりました。すぐ救援活動に出かけました。一度に多くの友を失いました。私は原爆被爆の悲惨さを子供の頃からいつも聞いて育ちました。

母の核廃絶・平和の尊さに対する強い願いには頭がさがります。母にはいつまでも元気でいて欲しい。

またすばらしい母校である中央大学に進学させてもらった恩は忘れることができません。1日でも長く元気で居て欲しいと願うこの頃です。

台湾の空に泳ぐ 鯉のぼり 増田 勝美(法)

平成19年3月25日、60有余年を経て台湾の空に鯉のぼりが泳いだ。かつて台湾にも5月には鯉のぼりが泳いでいたことであろう。時代は変わった。でも子供の健やかな成長を願う気持ちは同じ。場所や時間を問う必要は無い。

な成長への願いを込めて「龍のぼり」を作り、「龍のぼり」が鯉のぼりと仲良く泳ぐことになった。

将来、日本の子供達と台湾の子供達が、同じ

この度は、台湾の子供達の健やかな

空のもと仲良く健やかに成長してほしい、との願いを込めた学員日華友



好会の活動の一端を披露し、多くの方々の会への参加を、お誘い致します。

事業部掲示板

新年会

例年どおり「Sunmi高松」で行います。土曜日の午後5時〜7時。美味しい料理とお酒で友好を深めましょう。

今回も「オークション」を行います。詳細は同封の案内を見て下さい。

日時 平成20年1月26日(土) 午後3時〜5時

場所 Sunmi高松 東京都中央区銀座6-3-9

TEL 03-5568-3300 会費 5千円

ボーリング大会

学生時代に大流行したボーリング。最近再びブームの兆しが見えてきました。ボーリングとゴルフのスコアが逆なら、と思う方も多いかと思えます。師走のひと時、学生時代に戻って楽しみませんか。

* * * * *

日時 12月8日(土) 15時〜16時半

場所 東京・新宿ミラノボールゲーム方法 一人2ゲーム、1チーム3人で、個人とチームでゲームを行う

参加費 5千円(懇親会費を含む)

懇親会 新宿ライオン(17時より) しめきり 11月30日。事務局中島さんまで。

歌舞伎、映画、落語などから心に残るセリフを語る。

ことばの切っ先

心にせまるセリフ

葛西聖司(NHKアナウンサー)著 菊地ひと美 絵

古典芸能番組に携わってきた著者が、虚構の世界で語られるセリフの魅力を解き明かす。

小学館 ●定価1,890円(税込) 好評発売中!

4-09-387646-0

主要取扱申請書類等

- ◇建設業・工事入札・産廃業・宅建業
- ◇風俗営業・会社設立・会計帳簿作成
- ◇外国人在留手続・帰化・国際結婚
- ◇遺言書作成・遺産分割協議書作成

法律相談 申請書類作成 提出手続代行

行政書士 増田勝美 電話 03-3713-2299

らくがき
楽苦我喜
 原 伸正 (経済)

「地震とお墓と和尚さん」

今年7月16日の中越沖地震、被害が新潟県柏崎市に集中と聞き、思わずテレビに見入りました。私の出身地です。ニュースではヘリコプターからの映像が、被害の凄さを伝えていましたが、驚いたのは「原酒造」の建物がペシヤンコに潰れている場面でした。

「原家」は柏崎に多くありますが、我家が本家。「原酒造」は分家の関係です。本家は柏崎を離れ、今では親戚は誰も住んでいません。分家が「越の誉」の造り酒屋の「原酒造」として、地元の名家となっています。

誰もいないとは云え、先祖代々の墓は今も柏崎にあります。柏崎にはこの他に母方と祖母の実家の墓もあり、その状態を確認するため、道路が通れるようになった9月に柏崎を訪ねました。墓石が倒れているとの情報もあり、地元の人屋に連絡をして寺で待ち合わせです。道中、関越道は順調でしたが、長岡が近づくくと車線規制が始まり、北陸道は柏崎出口まで50キロの速度制限と一車線規制が続きました。それでも4時間程で柏崎に到着しました。

寺の裏山が墓地になっていますが、辺り一帯、殆どの墓石は倒れるというより飛び散っています。この寺の墓石の修復を請け負った石屋もどこか手をつけていいのか思案の様子。他の二ヶ所の墓は倒れるまでいかず一安心でした。今回はここまで、石屋から連絡があり次第、もう一度柏崎へ行き最終確認です。

お墓の修理代も心配ですが、地震で本堂が大きく傾き、困った顔の和尚さんと話していると、不謹慎ながら膨大な修繕費の寄付が連想され、冷や汗がじんわりと浮かんでくるのを感じました。

地震でお墓に行く回数が増えて先祖は喜んでるかもしれません。本堂の修繕代が少なく済みますようにと、困った時の仏頼み、掌を合わせました。



一般的に老後の最低必要生活費は月額28万円、ゆとりある生活費は月額38万円必要といわれています。夫65歳、妻60歳の夫婦の平均寿命までの最低必要生活費は、夫婦一人期間で約5200万円、妻一人期間で約2000万円、合計7400万円かかるといわれています。

平均年収500万円のサラリーマンの場合の年金額は、厚生年金分が109万円、基礎年金分79万円×二人で158万円、年金計267万円、月平均約22万円です。平均年収700万円の場合は、年金計308万円、月平均約25万円です。

昭和24年4月2日生、28年4月1日生の男性の年金は、厚生年金分が60歳から、基礎年金が65歳から支給されますが、妻の基礎年金が出るまでは加給年金が上乘せ支給されます。

実際には年収、履歴は各自全く異なるので地域の社会保険事務所で見ると判りませんが、データから見る限りわれわれ世代の平均値は、夫が65歳になるまでは多少厳しく、

そろそろ定年を迎える同期も多数いることと思います。退職金と年金で定年後はどうなるのだろうか？不安ですネ。そういう不安の相談に日々対応しているのがライフプランナー。ソニー生命保険(株)の安藤さんにお聞きしました。

ライフプランナー **安藤正幸(経済)**

定年後のお金と生活？ライフプランナーの現場から

それ以降は必要最低の年金が出るといことです。今までは一生懸命に働いてきたのにそれだけかと思うと何か寂しい思いがします。それを受けてアドバイザーやFPの方たちは口をそろえて、退職時に金融資産は2000万円以上なければいけないとか、運用して老後の資産を増やせと言います。

でも本当に定年退職者が皆そんなに資産や余裕があるのでしょうか？私が今まで相談を受けた様々な経験では、やっとなんかの教育費が終った、家のローン残金を払った、思ったより退職金が少なかったなど、理想とは違ふ現実がたくさんありました。

過度の心配はせず 身の丈にあった生活を
 ではそういう方の老後は惨めなのではないですか？ そんなことはありません。現実には退職金や換金可能な金融資産が500万円ぐらいいれば多少の出費には耐えられますし、年金収入だけの生活を過度に心配する必要もないと思っています。

実際は今の老後寄りの生活を見ると判るように、サラリーマンだった人の多くは年金生活になるとあまりお金を使わず、身の丈にあった生活をするようになり、そのうえ貯金もしっかりやっています。ですからあまり一般論に振り回されることはないのです。

資産運用も500万円を超えた分で物価上昇分をリスクヘッジするぐらいの運用、貯金よりましという程度が適当だと思います。反面、欧米先進国の年金生活のように普段の生活を質素に、散財するときは思い切つて使うメリハリのあるライフスタイルを実践しないと貯蓄はそこそこあるけれど、もったいなくて使えないだけの貧しい老後になってしまう危険性もあるので要注意です。

私はこの夏に母を亡くし、人の一生についていろいろ考えさせられました。お金があっても無くても、長い定年後の元気に活動できるうちにメリハリのある生活をするのが、後悔をしない老後になるのではないのでしょうか。

ホームカミングデーに参加して

10月28日(日)

台風20号が足早に過ぎ去った多摩のキャンパスは、昨日までの天気を心配していたのが嘘のような秋晴れとなった。昨年の反省から、今年はメイン会場の場所を取るため、8時集合厳守を言い渡された役員は、午



渡邊秀和(文)

前4時又は5時起床で郊外から駆けつけた。おかげで一番乗りで、スピーカーの音量が大きく会話にも支障がでるほどの特等席を確保できた。

イベント開始の10時から到着の会員も増え久闊を叙する会話が弾んだ。遠くは加納さんが奥様とともに名古屋から、新潟からは松平さんが参加された。午後からは、女性会員も加わり華やかさが増す。

途中からイベントに出演された黒部進氏を伴って、同期生で総合同会者の葛西さんが、49会の席に廻って来られた。黒部氏は、初代ウルトラマン・ハヤタ隊員である。氏が席を去られてから皆で記念写真を撮っておけばよかったと気がついたが後の祭りであった。

フィナーレの抽選会では盛り上がったが、残念ながら49会員からは高額賞品ゲットできたのは皆無だった。

編集 後記

20年後の生き方は…

20年前に学生アルバイトだったA君が、突然会社を訪ねてきた。受付に行くと20年前と変わらぬ彼がいた。「大竹さん、全然変わっていませんね」とA君に言われた。A君の言葉は素直に嬉しかった。20年前は雑誌の編集者で、昼夜逆転していて不規則な生活だったが、不思議と体重や体型は変わらなかった。頭髮が薄くなったのと、老眼鏡をかけた変化が

た。1番違いもあったりで抽選の度に、49会周辺からは歓声が上がった。今回集まった会員は家族、49年卒業生を含め総勢22名であった。昨年より少なかったが、ホームカミングデーに49会の旗を掲げて、誰でも気軽に参加できる機会を継続すること

が大事だと思う。我々50台半ば過ぎは老齢の両親、手と金のかかる子供を抱えて経済的にも精神的にも苦境にあると思うが、だからこそたまには情報・知識を交換する機会を設け、元気にこれからの乗り切るために助け合っていきたいと念願している。

会費の納入についてのお願い

49年白門会は会費によって運営されています。未納入の方は、是非、会費を納めてくださるようお願いいたします。

年会費3,000円、入会金1,000円です。

なお納入方法は、下のいずれかをお選びください。

①郵便振替 (手数料は不要です)

振替口座番号「00180-3-196081」

口座名称「49年白門会」

②銀行振込 (振込手数料が必要ですが)

銀行名 三菱東京UFJ銀行日野市役所支店 普通預金「0569115」

口座名 49年白門会 代表 山崎厚太

49年白門会連絡先・事務局

※住所・勤務先変更、新規会員紹介、お問い合わせ等、何でもご連絡ください。

※年2回発行するこの会報へ、広告の出稿、詩、俳句、エッセー等の原稿、企画案、ご意見をお寄せください。

49年白門会幹事長 中島章夫

東京都千代田区神田駿河台3-11-5 中央大学学生会事務局

電話 03-3219-6175 FAX 03-3219-6177

※メールアドレスの登録・変更は hakumon@gray.plala.or.jp にご連絡ください。

事務局だより

12月には「ボーリング大会」1月には「新年会」と、事務局では楽しい演出を考えています。

「49年白門会」も8年目に入りました。定年を迎える方もいらつしやいます。より充実した会にしていきたいと思っております。

ホームページの活用や、この会報に対するご意見・ご希望など、どんなお寄せください。

広告募集

この会報を作る費用を広告収入である程度賄う予定です。広告スペースを千円で提供します。原稿の版下があればそのまま使いますが、無ければ広告原稿を広報部で作成します。お申し込み、ご相談は事務局までご連絡ください。

計報

鈴木庸郎さん(法)が動脈瘤破裂により平成19年8月15日逝去されました。鈴木さんは、49会の第二期において、事業部の役員となり部の活動に積極的に関わっていただきました。ここに鈴木さんのご冥福を心よりお祈り申し上げます。